

愛知県環境影響評価審査会 会議録

1 日時 平成25年10月18日（金）午後2時から午後3時55分まで

2 場所 愛知県自治センター4階 大会議室

3 議事

- (1) 中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価準備書【愛知県】について
- (2) その他

4 出席者

委員18名、説明のために出席した職員16名、事業者8名

5 傍聴人等

傍聴人4名、報道関係者1社

6 会議内容

- ・ 議事録の署名について、大東会長が那須委員と夏原委員を指名した。

- (1) 中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価準備書【愛知県】について
 - ・ 中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価準備書【愛知県】について、別紙1のとおり諮問を受けた。
 - ・ 資料の第1章から第7章までの内容について、事務局から説明があった。

<質疑応答>

【夏原委員】 5kmごとに非常口を設けると記載されているが、有効的な活用がなされるのか。

【事業者】 あらましの5ページの左下に示すとおり、都市部では5kmに1か所非常口を設ける。この非常口は、施工時にはシールドトンネル工事の起点となり、8ページの右上に示すとおり、立坑を設けることとなる。一方、供用時は、6ページに示すとおり避難をするための階段やエレベーターを設ける。また、空気を換気するための設備、その換気設備のための消音設備、多孔板という微気圧波に対応するための設備も設ける。このように施工時だけでなく、供用時にも活用することを考えている。

【大東会長】 あらましの3ページで、名古屋市ターミナル駅よりもさらに西の中村区の方までトンネルを掘るとしており、おそらくシールド工事によりトンネルを掘ることになると思われる。トンネルの末端にシールドマシンを引き上げるための立坑を設置しないようであるが、どう考えているか。

【事業者】 名古屋駅から西側へ約2kmほど、異常時等における輸送の弾力性を確保するために引上線を設置する。この施工はシールドマシンにより行うが、シールド発進基地を名古屋市ターミナル駅の端部に設けることを考えており、そこから西側へシールドマシンを発進させていく。到達したところでシールドマシンの胴殻を存置する。このため、引上線の端部に非常口を設けることは想定していない。

- ・ 資料の第8章から第12章までの内容について、事務局から説明があった。

【藤原委員】 リニアは大深度地下を通過することから、地表面への磁界の影響はないと思う。ICNIRPガイドラインが少し前に改正されたが、2010年の最新のガイドラインを用いたかについて確認されたい。

【事業者】 資料編の279ページに静磁界に関するガイドラインが、293ページに時間変化する場合の2010年の最新のガイドラインが示されている。これらの最新のガイドラインを用いている。

【藤原委員】 資料編の327ページに示されている磁界の基準値や、あらましの11ページに示されているICNIRPガイドラインの数値が最新の値かどうかを再度確認してほしい。

【事業者】 再度確認する。

【吉久委員】 準備書の534ページに方法書に対する愛知県知事からの意見と事業者の見解が記載されているが、意見と見解が食い違っている気がする。
(3) エは、列車の走行に伴い発生する微気圧波に起因して騒音及び低周波音が発生するのではないか、それらについて調査、予測及び評価を行うことという意見であるが、見解では「山梨実験線において。微気圧波に伴う騒音の影響が非常に小さいことを確認しています」とされている。低周波音についてはどうなったのか。

また、微気圧波の予測について、準備書の758ページでは予測条件として列車速度が500km/hと記載されている。愛知県内には6つの換気施設が設けられるとのことであるが、それぞれの通過速度はどれぐらいか。県内の走行速度は振動の予測にも影響してくると思う。

【事業者】 微気圧波に起因する騒音・低周波音について、方法書段階で騒音のデ

ータをお示ししたが、その後にも調査を行っているため、整理して次回お示ししたい。

微気圧波についてはトンネル突入時の影響を考慮しており、岐阜県内で500km/hでトンネルに突入した場合の微気圧波の影響を予測・評価した。速度については、名古屋駅で停車するために、愛知県内では500km/hから徐々に速度を下げることとなる。

【吉久委員】 予測にその条件を入れているのか。

【事業者】 微気圧波は、トンネル突入時の圧縮波がトンネルの出口から放出される時の音である。愛知県内には25kmのトンネルが設置されるが、トンネルの入口は岐阜県可児市付近になり、全体では35kmのトンネル延長となる。品川から名古屋方面に向かって時速500kmでそのトンネルに突入したという厳しい条件で予測を行っている。

【吉久委員】 断面積と比較して列車の面積はかなりあるが、それは考慮していないということか。微気圧波に起因して低周波音が生じるかどうか、よくわからないので心配である。愛知県内における列車の速度については考慮されていないのか。

【事業者】 微気圧波の伝搬速度は音速であり、概ね1,000km/hである。リニアの最高速度は500km/hであり、微気圧波は車両の2倍の速度で先に進む。山梨リニア実験線でも、かなり調査をしており、その実験データも反映しながら予測計算を行った。

【吉久委員】 実験データを示していただきたい。方法書段階でも発言したが、実験データをなかなか示していただけなかった。

【大東会長】 データがあるならば、それを示すことで納得すると思う。データを出していただけるのか。

【事業者】 データの提出については、社内で検討するが、リニアの技術、ノウハウに関わる情報もあることをご理解いただきたい。

【葉山委員】 オオタカについて、準備書の1109ページに「事業により10.2haが改変を受ける可能性がある」と記載されているが、21ページには「保守基地は約3.0ha」とあるため、換気施設のために7haぐらいの場所を改変するということか。

【事業者】 1086ページのオオタカのハビタットへの影響を示した表で、改変の可能性がある面積として、西尾ペアが7.1ha、上野ペアが3.1haと示しており、これを足すと10.2haとなる。改変の可能性がある面積として、大きめの値としている。

【葉山委員】 改変の対象がどういうものなのか教えてほしい。

【事業者】 西尾ペアは保守基地と山岳部の非常口について、上野ペアは都市部の非常口について改変の可能性がある面積を示している。

【事務局】 あらましの4ページで、1番右の丸印で示した保守基地が西尾地区であり、右から2番目の丸印が上野地区である。生態系に関しては、全体を2つに区分しているが、西尾地区と上野地区はともに里地・里山の生態系に該当するとしているため、それぞれを加えた10.2haを改変の可能性がある面積として示している。

【長谷川委員】 ボーリング調査をした結果を示してほしいと方法書の審査でも発言したが、準備書に記載されているか。

また、1133ページにテレビ塔から変電施設を眺望した時の景観の予測結果が示されており、見ることができた森が見えなくなるほど大きな構造物ができることになる。どれぐらいの大きさなのか。

【事業者】 今回の準備書では、評価項目に必要な内容を準備書本編や資料編に掲載しており、ボーリング調査の結果そのものについては示していない。ただし、資料編の253ページに地層のモデルを、準備書本編の847ページに山岳部トンネルの地質縦断の図を示している。

変電施設については、高さが35mであり、これをもとに日照障害や電波障害の予測を行っている。周辺の建物と比較しても、それほど高層の建物ではないと考えている。

【酒巻委員】 準備書の1155ページ以降にある廃棄物や温室効果ガスの予測について、愛知県内の区域に限った結果か。それとも、品川から名古屋の全線に係る結果か。

【事務局】 愛知県内における予測結果である。

【田代委員】 亜炭坑については、リニアが大深度地下トンネルであり、空洞の深さよりも深いところを通過するため、地盤沈下はないと予測しているが、準備書の891ページの⑩や⑭の辺りに非常口が設けられると思われ、亜炭坑の影響について綿密に調査した方がよいと思う。また、資料編の259ページや260ページに文献調査結果が示されているが、かなり古い文献である。亜炭鉱は現在も研究が進められており、空洞調査もなされていると思われるので、新しい知見を掲載したほうがよい。

【事業者】 亜炭鉱に係る文献について、最も確からしい情報として、準備書の891ページに工業技術院地質調査所、現在の独立行政法人産業技術総合研究所という国の機関の調査結果を掲載した。その文献で示されている亜炭鉱の位置は、あらましの4ページの2つの非常口（都市部）の間に位置しており、非常口の位置にはあたらないだろうと考えている。

文献が古いのではという意見についてであるが、力学的な観点や、岐阜県の御嵩町での調査はかなり進んでいるが、春日井市周辺の調査は最近ほとんど行われていない。

準備書に掲載した資料の他にいろいろな調査がされていると思う。公開されていない調査結果も含め、最新の調査事例やデータをできる限り収集して、今後の工事に当たっての検討に反映させていきたい。なお、準備書の 897 ページにも記載しているが、トンネル工事の実施前にボーリング調査等による空洞調査を行い、その結果を踏まえ、必要に応じて空洞の充填などの対策を行ったうえでしっかりと工事をするため、地盤沈下はないと予測している。

【田代委員】 桃花台でも陥没があったが、この地域の方は、陥没等に対して敏感であるため、今後も調査をしっかりと行ってほしい。

【二宮委員】 準備書の 777 ページに、都市部の非常口からの低周波音に係る換気口から 20m 地点の予測結果が示されているが、換気口の中心から 20m 以内に住宅がないという前提で工事を行うのか。

また、上りと下りの列車が同じトンネル内を通過することになるが、それらがすれ違う際の最大値を予測した結果か。それとも、片側通過時の予測結果か。

【事業者】 換気施設と予測地点の位置は 767 ページに示すとおりであるが、直径約 30m の換気口を設置しようと考えており、工事ヤードの範囲は換気口中心から概ね 20m 以上になるが、住居等の位置が 20m を超えるかどうかは、これから計画することになる。準備書の 777 ページは換気施設の稼働に係る低周波音の予測結果であり、車両の走行に係る低周波音については予測を行っていない。

【二宮委員】 敷地境界は換気口中心から 20m 以上であり、低周波音や微気圧波を住民は感じないと理解すればよいか。敏感な人は、低周波音や微気圧波を常に感じて不快になるということか。

【事業者】 常時気にならないという評価結果であり、そこまでは今回の計画の範囲内であると考えている。

【二宮委員】 非常口や線路の位置は確定されたものか。今後、位置が変更されることがあるのか。

【事業者】 あらましの 3 ページに、路線の絞り込みとしてリニアの技術的制約条件や環境要素等による制約条件を示しているが、こういった条件を踏まえてベストなルートを選定したと考えており、ルートの変更はないと考えている。

都市部の非常口の位置はルートに密接に関係するが、自社用地、公共用地、秘密保持が期待できる企業の用地等を選定しており、事前に一定の理解をいただいている土地である。

具体的には、都市部の非常口のうち、最も岐阜県に近い場所については約 30,000 m²の比較的広い土地である。非常口として必要な面積が概ね 5,000~10,000 m²であるため、工事中を含めて十分な敷地で余裕のあるレイアウトが可能である。

2つ目の都市部の非常口は、神領駅に付帯する車両基地の敷地の一部で、現在使用していない土地に設置する予定である。北側に住宅があるが、敷地境界から住宅まで概ね 20m 以上は離れている。

3つ目の庄内川右岸の非常口は、工業地域に設置し、周辺は町工場があるが住宅はない。5,000 m²弱の比較的狭い面積であり、隣の工場との距離はかなり近接しているが、住宅とは隣接していない。

4つ目の名城東小公園は、東海財務局の所有地であり、約 6,500 m²の概ね半分を使用して、非常口を設置する予定である。工事中は約 6,500 m²の全体を使用する計画である。

【長谷川委員】 準備書の 993 ページから、現地で確認された動物の予測結果が示されており、多くの動物について生息環境に問題はないということである。しかし、例えば、1008 ページのメダカに係る予測結果として、改変の可能性があり、必要に応じて沈砂池、処理装置を配置して対応するとされているが、どのようなものをつくる予定か。どんな対策をするのか次回に示してほしい。

また、1006 ページにヒメボタルの予測結果が記載されており、ヒメボタルが生息している外堀周辺の改変は行わず、周辺に同質の生息環境が広く分布するから大丈夫であるということであろうが、ヒメボタルのメスは羽根がなくて移動ができない。表土を移植するなり対策を考えていただくとういと思う。次回でよいので、環境保全措置を行わないとした考えを説明してほしい。

【大東会長】 発言が尽きないが、時間の都合もあるため、お気づきの点は事務局に伝えてほしい。

- ・ 中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価準備書【愛知県】について審査させるため、大東会長の指名により、別紙2のとおりリニア中央新幹線部会を設置した。

(2) その他

- ・ 特になし。



25環活第260-1号

平成25年10月18日

愛知県環境影響評価審査会

会長 大東 憲 二 様

愛知県知事 大村 秀 章



中央新幹線（東京都・名古屋市間）環境影響評価準備書【愛知県】

について（諮問）

このことについて、愛知県環境影響評価条例（平成10年愛知県条例第47号）第33条において準用する同条例第20条第4項の規定に基づき、貴審査会の環境の保全の見地からの意見を求めます。

担当 環境部環境活動推進課

環境影響評価グループ

電話 052-954-6211（ダイヤルイン）

愛知県環境影響評価審査会 リニア中央新幹線部会構成員

委員名	所属等
さかまき ふみお 酒巻 史郎	名城大学理工学部教授
だいとう けんじ 大東 憲二	大同大学情報学部教授
たけだ みえ 武田 美恵	愛知工業大学工学部講師
たなか いねこ 田中 稲子	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授
なかがわ みちこ 中川 弥智子	名古屋大学大学院生命農学研究科准教授
なす たみえ 那須 民江	中部大学生命健康科学部客員教授
にのみや よしひこ 二宮 善彦	中部大学工学部教授
はせがわ あきこ 長谷川 明子	公益財団法人日本生態系協会評議員
はやま よしかず 葉山 嘉一	日本大学生物資源科学部准教授
ひろばた やすひろ 廣島 康裕	豊橋技術科学大学大学院工学研究科教授
ふじわら おさむ 藤原 修	名古屋工業大学特任教授／名誉教授
まつお なおき 松尾 直規	中部大学工学部教授
よしひさ こういち 吉久 光一	名城大学理工学部教授
よしむら いづみ 吉村 いづみ	名古屋文化短期大学教授

(敬称略、五十音順)